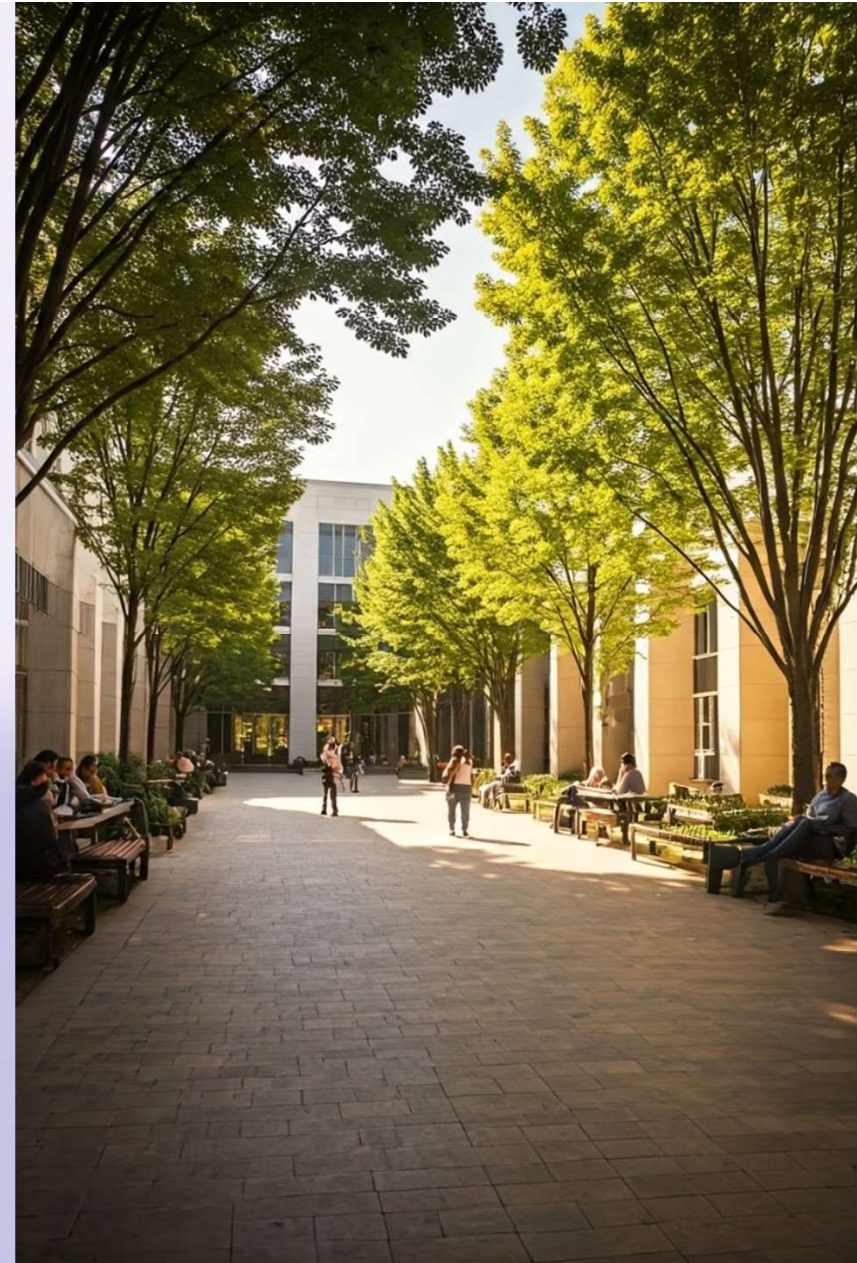


みんなが進めるDX

4グループ



目次

1. DXが必要となる背景

2. DXによって業務がどう変わるか

ーチャットボットの活用

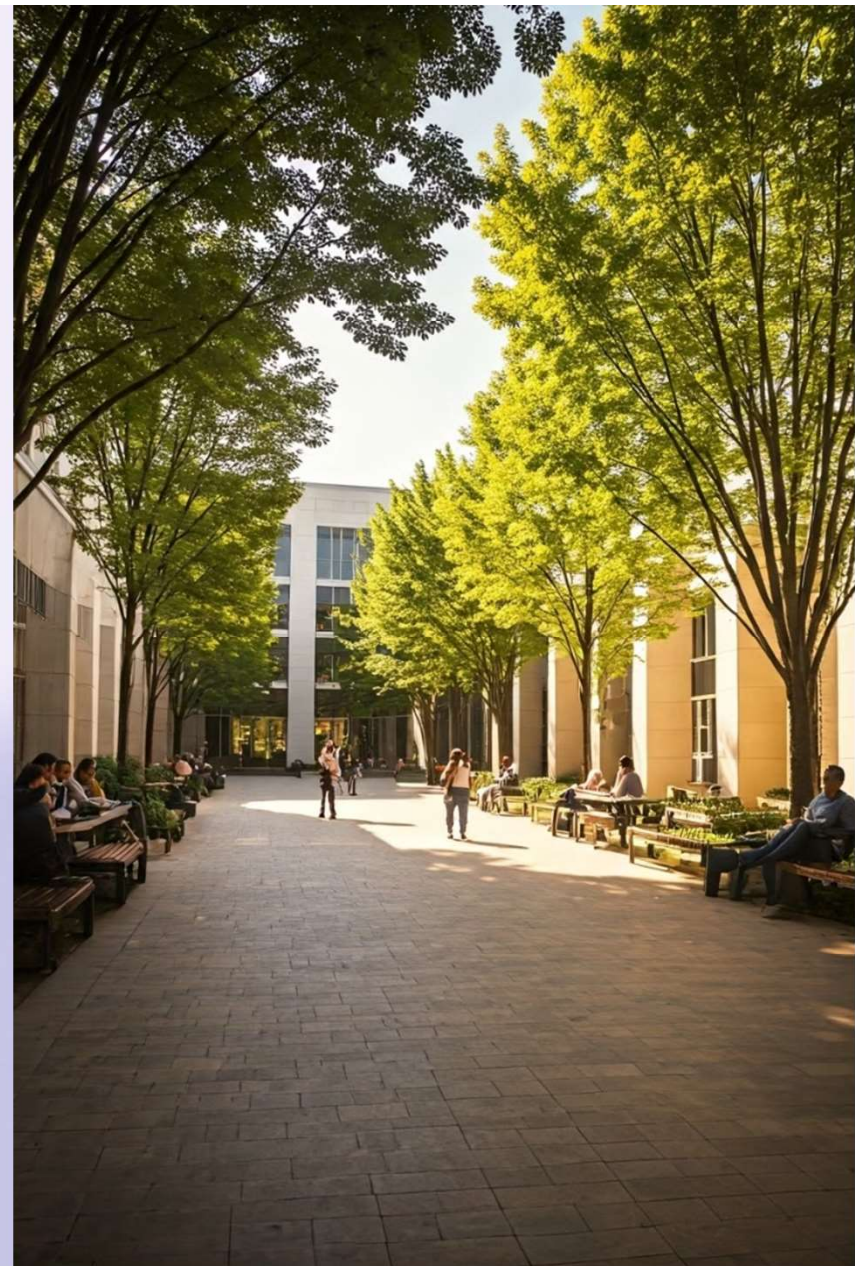
ー電子決裁・コミュニケーションツールの活用

ーRPAによる業務効率化

ーIRによる大学業務の高度化

3. DX推進の課題

4. 解決のための提案



DXが必要となる背景

1 社会情勢の変化

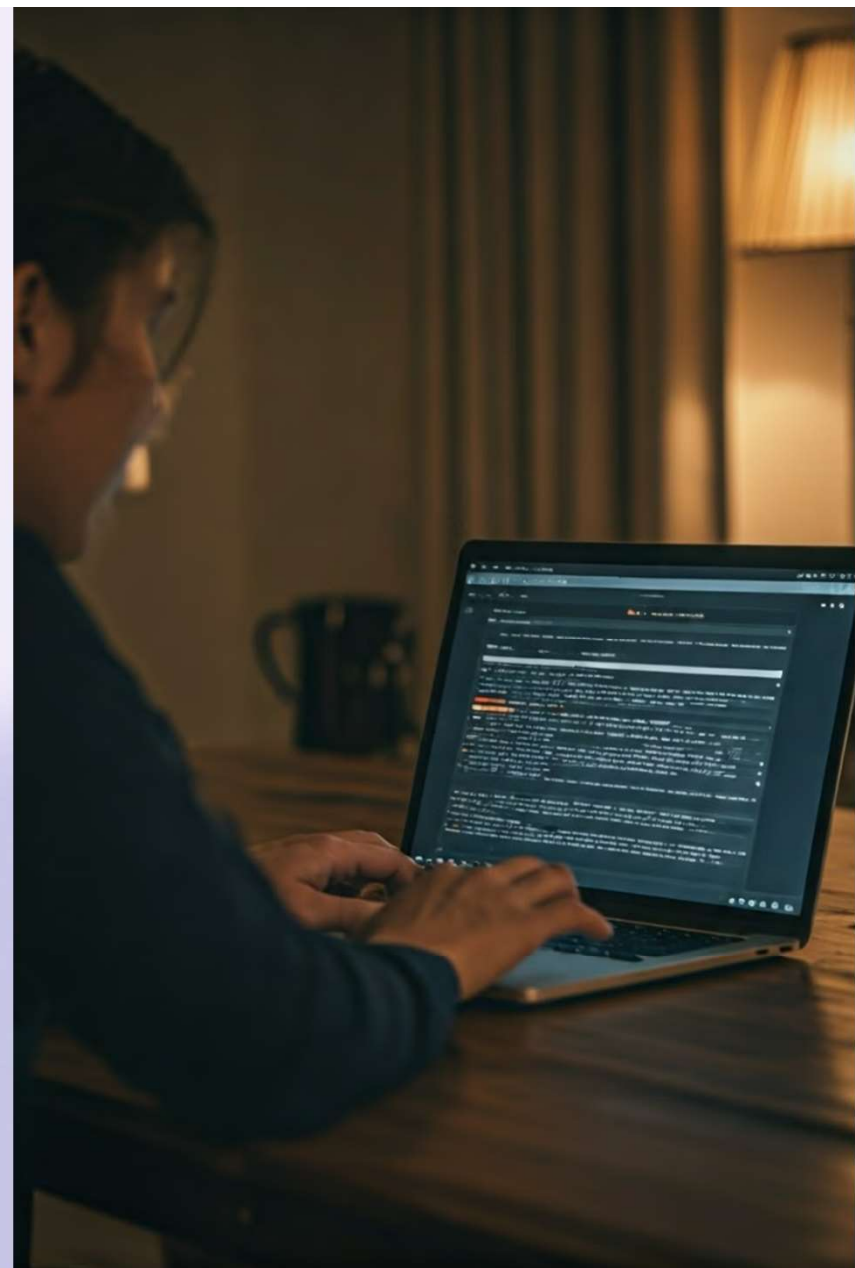
18歳人口の減少による収入減。
同時に就労人口の減少による採用難、物価上昇など
経費増

2 テクノロジー進展によるビジネススピードの激化

社会のスピードが変化していくので、高速にビッグデータを
解析して早く意思決定を行うことが必要。データクレンジングや
分析に時間をかけている場合ではない。即判断が求められる

3 データドリブンな意思決定・説明が当然に

人材・社会の流動化が激しくなり、「経験と勘による意思決定」
が有効でなくなる。説明責任が求められるため、データを客観的
に扱うスタイルが業務のあらゆる場面に生じる



**もし、この発表中に
1曲制作できると言ったら
どう思いますか？**

では、やってみます

次の内容で、Jpopアーティスト「Official 髭男dism」風のJpopバラード風の曲を制作して。

#内容

2日間の研修で、初めて出会う人たちと意見をぶつけ合った。
楽しいこと、つらいこともたくさんあったけど、自分たちが成長できたことはみんなで力を合わせたからこそ。
明日からまたバラバラに足取りを進めていくけど、またどこかで出会えたらいいね。



チャットボットの活用

よくある質問に対する答えを学習させ自動で回答する仕組み

自動応答

24時間対応が可能で、ユーザーにも職員にもメリットがある

同時に対応可能

電話だと、人員に限界があるが、同時に対応可能であるので、ユーザーを待たせない

音声対応

自動音声対応も検討し、電話での対応を好む方へも対応できる



電子決裁とコミュニケーションツールの活用

電子決裁(WF)

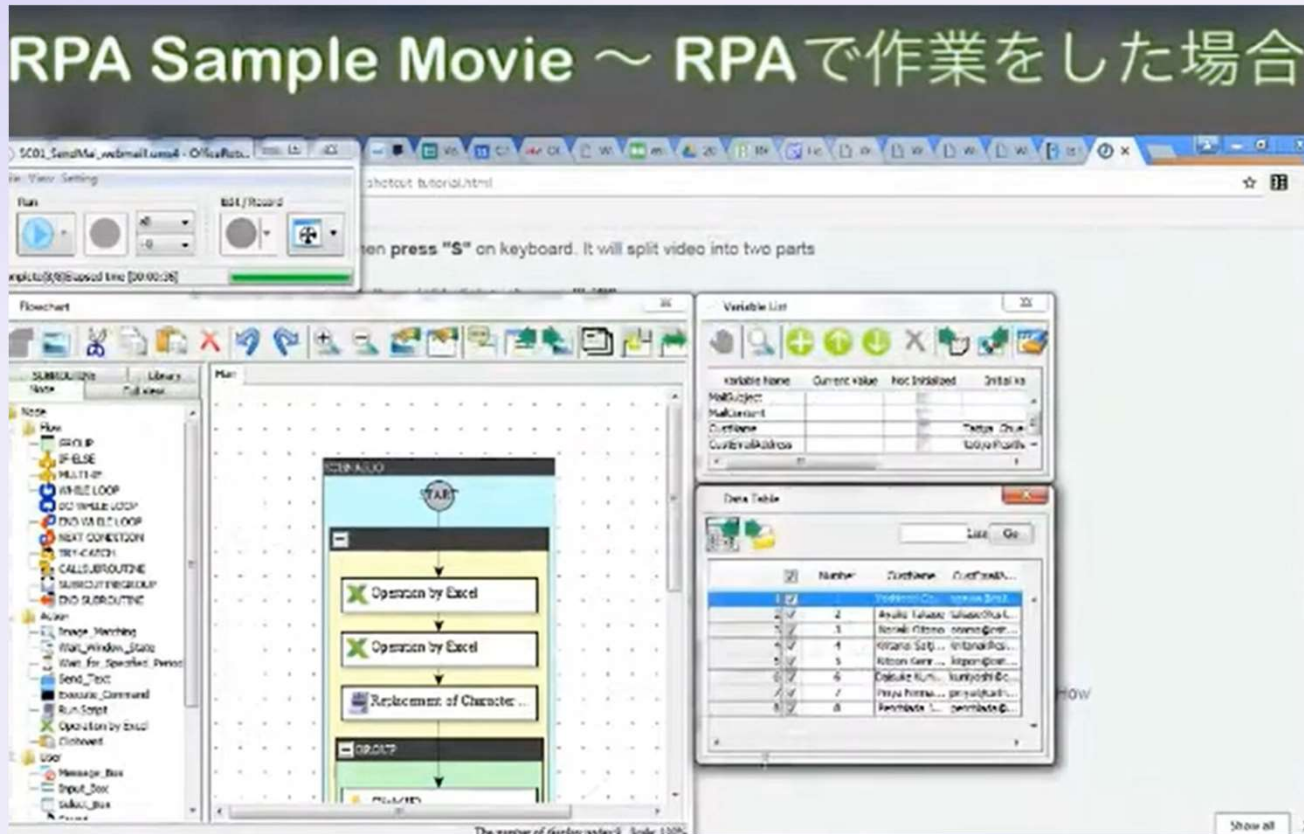
ワークフローシステムを導入し、紙文化から脱却することで、承認までの時間や手間を削減できる

どこにいても仕事を止めない、止まらない仕組み

Slack/Teams

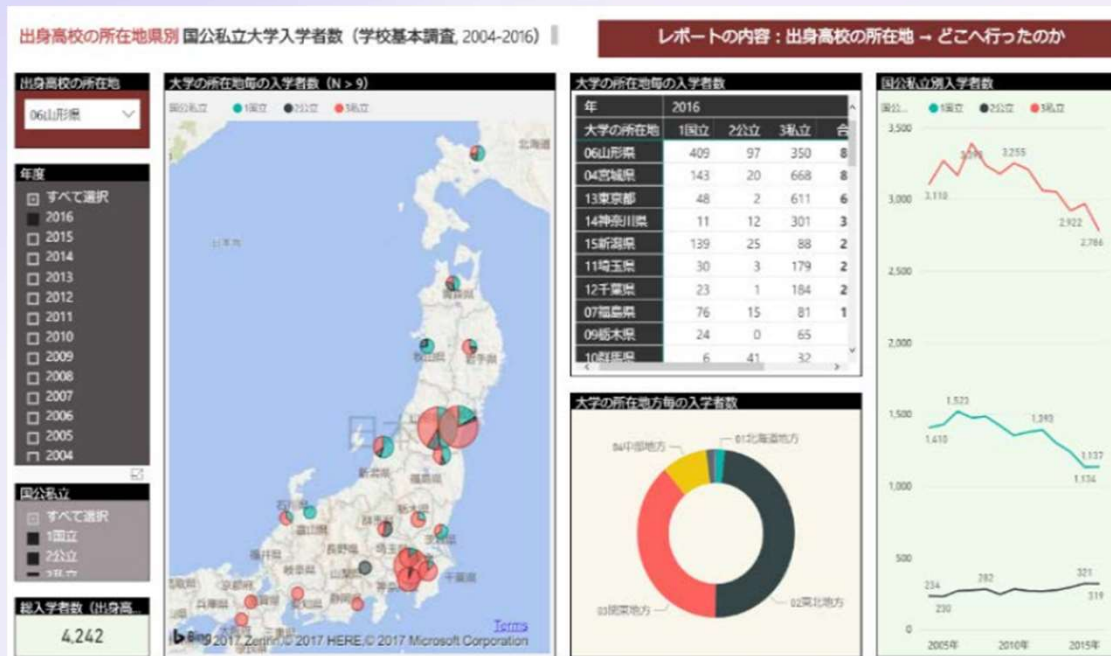
チャットツールの効果的な活用方法を浸透させることにより、情報共有の高速化と質の向上がはかれる

RPA活用による業務効率化



メール自動送信の例

IRによる大学業務の高度化



見える化・見せる化

数字だけでは見えない傾向が
一目で分かる

データによる現状分析

データを使って具体的な状況を
分析することができ、具体的な
課題抽出や解決策の検討がで
きる

政策提言

データに基づき図解で状況報告
ができるため、意思決定などのス
ピードが速くなる

DX推進の課題

1 時間不足

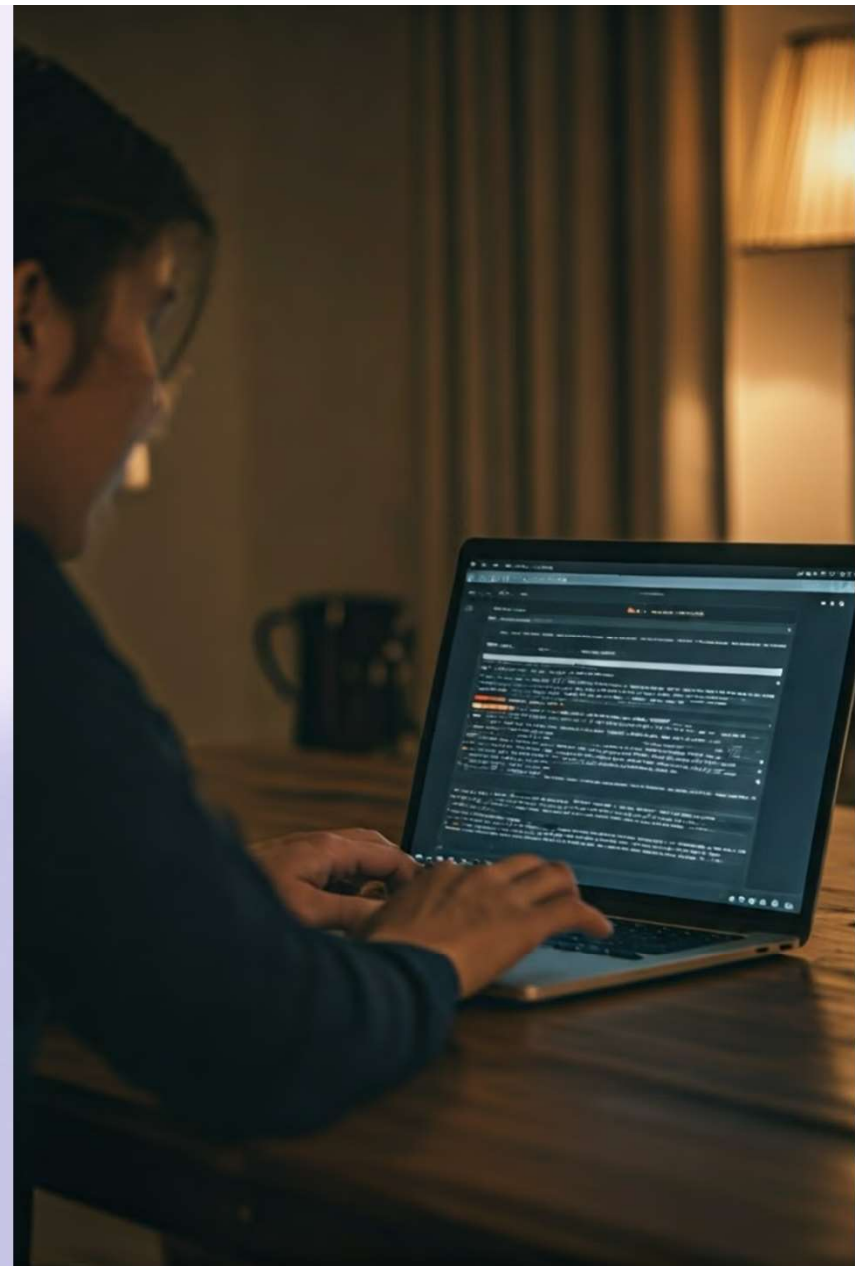
ルーチンワークに時間や労力が割かれており、新しいツールを導入するための時間的・心理的な余裕がない

2 組織文化の調整が難しい

これまでと異なる進め方の場合、関係部署との調整が必要手間がかかるため、導入に二の足を踏む

3 技術的な問題

エラー発生時の対処など、技術的な課題に対応できる職員がいない（能力不足）



解決のための提案

1 時間不足

RPAツール、チャットボットの導入によって定型業務を自動化。時間不足を解消する

2 組織文化の調整が難しい

RPAやチャットボットを導入することで多くの部署で業務改善が図られ、DX推進にあたっての心理的な抵抗が減る。結果部署間連携がはかりやすくなる

3 技術的な問題

勉強会・実践報告会での報告を義務付け、資格取得を必須とするなどITレベルの底上げをはかる(Microsoft Office SpecialistやG検定、データサイエンティスト検定)